「市の芸術・文化行政ヒアリング実施結果」（まとめ）

資料２－４

		区役所地域振興課	麻生市民館	川崎市文化財団	市役所市民文化室	まとめ
担当		武濤、石井	菅原、武濤、菅野、高橋	菅原、石井	菅原、石井、山田、金光、武濤、東川	
実施日		7月3日	7月5日	7月9日	8月1日	
1. しんゆり・芸術のまち推進の為のアイディア（第3期提言への意見）	①文化担当官の設置	●過去一時的に（平成20～22年度）「しんゆり・芸術のまち担当」が置かれていたが、NPO法人しんゆり芸術のまちづくりが発足したことにより現在は区役所に担当は置かれていない ●担当部署を再度設置することは難しいが、別の形で役割を担える方法を検討したい	●芸術文化施設・団体が多数活動しており、市民館だけでは把握しきれないので、文化担当官の役割は必要 ●行政におくよりも柔軟に動ける民間のほうが良いのではないか ●柔らかなネーミングに変えた方がよいのではないか	●過去にしんゆり芸術担当が置かれた様に、区の特徴のある政策課題として文化担当官となるセクションを検討されるべき ●民間で考えると、市の文化大使のように、区の文化大使を置くのはどうか	●区の特色に応じて力を入れている施策に人員配置する仕組みが過去にはあった。同じような動きがあれば区の特性に応じた配置が可能となるかもしれない。 ●地域に根差した取り組みを長く続けるためには地域が担うほうがよいのではないか	●区の特徴のある政策課題として、行政に文化担当官のセクションを検討すべき（文化財団） ⇔ 担当部署の再度の設置は難しい（地域振興課） ●市の文化大使のように、区の文化大使を置く
	②麻生文化会議の設置	●NPO法人しんゆり芸術のまちづくり、しんゆり芸術のまちづくりフォーラム等が役割を担えないか検討中 ●アートセンター、市民館、NPOを含め、ネットワークの窓口は一つにこだわらず、各団体にメリットがある形で議論を進めたい	●ネットワーク作りについては地域振興課の協議を見守りたい ●多くの施設・機関のネットワーク作りは必要	●アルテリッカ、音楽祭、映画祭等の各サポーター同士がゆるやかに交流する場としては ●フェイスブックやツイッターなどウエブを活用したネットワーク会議として、情報収集・発信する ●情報をまとめる事務局を担うための予算とマンパワーの確保が必要	●芸術のまちづくりフォーラムやNPOしんゆり芸術のまちづくりの見直しの中で、うまく仕組みができると、文化担当官の設置を併せて情報発信・収集ができるのではないか	●NPO法人しんゆり芸術のまちづくり、しんゆり芸術のまちフォーラム等が役割を担えないか ●アルテリッカ、音楽祭、映画祭等の各サポーターの交流の場 ●ウエブを活用したネットワーク会議として、情報収集・発信する
	③情報発信・活性化（景観条例見直し）	●所管局（まちづくり局）の動向を見ながら、地域振興課としてできることを行っていきたい	●景観条例によるきれいな街並みは大切にしていきたい ●にぎわいとの線引きが難しいところである	●規制は守りながら、アートセンター通りにのぼりの設置や駅コンコースにポスターの掲示をしてはどうか		●規制は守りながら、にぎわいを作ることも必要 ●景観条例による街並みも大切にする
2.「しんゆり・芸術のまち」の今後の展開、施策の方向性について		●「しんゆり・芸術のまちづくり」推進組織のあり方と今後の連携体制を検討中 ●しんゆり芸術のまちづくりフォーラムや、アルテリッカ、アートセンター等の今後の展開について市民文化室とも協議する	●芸術文化を愛する区民を醸成・育成していくことが大切 ●音楽祭、文化祭、サークル祭など既存の事業・活動を継続していく ●成果の発表の機会が少ない団体にも機会を提供できる事業を展開していく	●しんゆりだけでなく区全体で、年間を通して区民が参加する芸術のまちであり続けることが必要 ●区内の多くの文化資源を活用して年間を通じて文化の薫りあふれるまちにしていく	●市の実行計画では第1期でアートセンターを整備、第2期でアルテリッカ芸術祭を立ち上げ、第3期でアルテリッカのエリアを多摩区、宮前区へ拡充してきた。26年度からの第4期では広がったアルテリッカを他の施設と連携するなどさらに活用していく	●しんゆりだけでなく区全体で、年間を通して区民が参加でき、多くの文化資源を活用して文化の薫りあふれるまちづくり ●芸術文化を愛する区民を醸成・育成していくことが大切 ●音楽祭、文化祭など既存の事業・活動の継続実施 ●アルテリッカを他の施設と連携するなどさらに活用していく
3. 若者が住みたくなる魅力ある芸術・文化のまちづくりについて		●麻生区は環境が良いというイメージを若い人は持っているので、更に芸術・文化が盛んなイメージを持って頂くことが大事 ●NPOのインターンシップに学生が参加し、こども支援室のワークショップやマタニティコンサートなどを行っている ●今後はソーシャルメディアなども活用し、地元の学生などの参加を促す	●小学生、中高生、40代の男性など幅広い年代の区民を育てていくことが大切 ●アニメ・漫画など10～20代の新鮮な芸術文化も必要	●区内の多くの大学に上記文化会議の1グループとして参加してもらう ●アートセンターで玉川大学、桐光学園など大学生、高校生により演劇制作を行う	●区と協定を結ぶ6大学との連携による取組ができるのではないか	●区内の多くの大学・高校から学生に演劇制作など芸術文化に参加してもらい、そのアイデアを活かす ●若い人にとって麻生区は環境が良いイメージがあり、さらに芸術・文化が盛んなイメージを作りだす ●麻生文化会議など団体間のネットワークに大学にも参加してもらう
4. 芸術・文化関連団体へのヒアリング結果に関する意見		●市民館の建て替え、練習場所の確保はすぐの対応は難しい ●アートセンターを拠点に、練習場の情報を含めた芸術・文化関連情報集約及び発信を行いたい	●市民館の建て替えについては、市全体として施設を60年間使用していくという長寿命化の方針がある。改修については2年先まで予約がはいっている状況もあり、長期的計画をたてて実施していく	●市民館、21ホールなどの会議室を防音工事し練習場所を確保 ●アートセンターのシネマニュースに区の文化情報を掲載してもらう検討を ●市政だより区版で文化情報の定期的発信を	●文化事業の予算化 音楽のまちとしてミューザに重点的に経費をかけている。大きな施策の転換により流れが変わることはある。 ●練習場所について 市民館等の施設は改修しながら長期的に使用していく方針。インフラ整備は経費がかかるので一朝一夕にはいかない。 ●ふれあいカード 施設の特徴に合わせて導入されており、利用できない施設、できる施設がある	●練習場所の確保の問題は、施設建設・改修などの設備投資は簡単にはいかない ⇒ 市民館など施設改修の際に会議室の防音工事など ●市としては市民館などの施設は改修しながら長期的に使用していく方針 ●民間施設などの練習場所の情報の集約・発信が必要 ●アートセンターのシネマニュースや市政だより区版による情報発信を